

弥栄町野間地域

味土野（みどの）

天が広く豊かな土地であったが、今は面影も無い。
ガラシヤの隠棲の地として名高い。



大谷（おおたに）

大清水の湧水は硬度50を切る軟水で、お茶が美味しい。湧水を利用したアマゴの養殖場がある。



来見谷（くるみだに）

後方に太鼓山、右に小金山を望む谷筋に点在する集落。6戸の内5戸が移住世帯である。



須川（すがわ）

近畿自然歩道の手掘りトンネルと須川溪谷は見応えのある景観。初春、雪中の福寿草は愛おしい。



丹後半島の山間部に位置する地域で林野率は90%に及び、耕地率は僅か2%に満たない典型的な山村地域である。各種資源や里山の景観に恵まれているが、冬季には多くの積雪があり、第一次産業の衰退に伴い、人口は年々減少してきた。かつて250戸1300人が暮らしていたが、2017年12月現在、72戸160人となった。
朝夕の寒暖差が大きく、清流野間川を流れる極めて良質な水に恵まれ、鮎・あまご・うなぎ等の川魚や、米、そば等の農産資源に恵まれた地域である。また、地域内には豊かな自然と共に、歴史遺産や住民が継承してきた文化的な資源も多い。

弥栄町野間連合区

野間基幹集落センター内
電話 (0772-66-0002)

野間地域の各地区の連合機関として、地域内の連携や共同事業の円滑化を図り、相互扶助の精神で、野間地域の発展と次世代への継承を目指して、様々な活動を展開しています。

現状と活動の基本方針

当地域は、高齢化率が53%に達しており、今後も更に人口減少と高齢化、孤立化が進行することは確実です。それは、納涼祭・文化祭・運動会・秋祭などの地域行事は元より、家周辺の雪かき、農地の草刈り、水路管理等の共同作業や農地管理も困難になることを意味します。その中にある、「住んでいて良かったといえる野間」「住み続けられる野間」を実現するために、地域の安心安全を確保し伝統文化を継承すること、生活基盤の整備や仕事興しを両輪とした活動を行います。

こうした事業の中核は、野間連合区と各区・各地区民、そして公民館などの各種団体で構成する「地域連携組織・溪里野間(かわざとのま)」です。最近の重点は移住促進です。

野間地区年間行事

◇納涼祭
(8月15日)



◇運動会
(10月第一日曜)



◇秋祭り
(10月第二日曜)



◇文化祭
(12月第一日曜)



霰（あられ）

金時山の麓。大銀杏と円錐形に刈り込まれた大椿のある洞養寺には、金剛童子山開祖・役小角が祭られている。



中山（なかやま）

野間を象徴する管理の行き届いた田んぼが美しく広がる。二基のスノートンネルが客人を迎えてくれる。



中津（なかつ）

野間川の美しい中流域の景観が広がる。延命寺の樹齢400年の椎の大木と、桜公園が迎えてくれる。



田中（たなか）

野間で最も美しい田園風景が広がる。白滝では、安心安全な無農薬有機栽培のお米が生産されている。



野中（のなか）

子持ち狛犬が伏せる大宮神社(1332年建立)。初夏には紫陽花、秋には山裾には紅葉と銀杏が広がる。



吉野（よしの）

曲がりくねった街道には、遅咲きの合歓の木が広がる。丹後の海と山を繋ぐ縦貫林道に通ずる村。

